NIE実践報告

1．タイトル：☆「アップ」あるいは「ルーズ」の特徴を生かして新聞を作ろう

2．学校名

長野県川上村立川上第一小学校

3．実践者名（代表者名）

岩田　典久

4．学年

第4学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

国語　25人

6．単元（本時の学習課題）名

「材料の選び方を考えよう」

7．目標（狙い）

教材文『アップとルーズで伝える』では、文章構成を理解すると共に、それぞれで伝える良さを読み取る。
『学校のクラブ』について、「アップ」、「ルーズ」の特徴を生かして新聞記事を書き、3年生に伝える。

8．評価の視点

「アップ」、「ルーズ」それぞれの写真が何を伝えたいか読み取ることができたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

『材料の選び方を考えよう』（教科書教材：光村図書）　全17時間
（「アップとルーズで伝える」6時間　「学校のクラブを紹介しよう」11時間）

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

・「アップとルーズで伝える」を読み、見通しを持つ。（1時間）
・写真と文章の関係やそれぞれの段落の全体の役割に注意しながら読む。（2時間）
・筆者の伝えたいことをとらえる。（1時間）
・新聞写真1＜アップ＞と写真2＜ルーズ＞から何がわかるか、考えたり話し合ったりする。（2時間）
・「四年三組から発信します」を読み、活動の見通しを持ち、学習計画を立てる。（2時間）
・相手や目的にあった選材、表現の工夫をして「学校のクラブ」を紹介する新聞を作る。（7時間）
・読み手である3年生に発信する。また、教材文を読み返し、活動をふり返る。（2時間）
（留意点）
・「アップ」の長所は「ルーズ」の短所になっていることに気づかせ、それぞれの良さをつかませる。
・伝えたいことと知りたいことを意識して情報を発信する必要があるという筆者の考えを理解させる。
・知りたいと思うことを推測したり、伝えたいと思うことを選んだりして、記事を決めさせる。
・新聞の書き方は、「新聞記者になろう」の学習を思い起こさせる。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

2枚の新聞写真を見比べて、得られる情報の違いを話し合わった。少ない情報ながらも、「アップ」と「ルーズ」に絡ませて、「おばあさんの表情は分かるけれど、周りにほかの人がいるか分からない」「山の形や高さはわかるけれど、葉の様子は分からない」など、意見を出し合い班ごとに発表していた。

12．成果と課題

◇新聞記事を書く技能の向上だけでなく、友だちと協力して楽しく新聞を作ることができた。
◇新聞写真の選び方、目的意識を高める単元展開のあり方、小見出しの重要さなど、実践から多くのことが示唆された。
◆難しい漢字や言葉、文章が多く、読みこなせないこと。（特に低・中学年）
◆素材を探すのに時間がかかる。（学校での蓄積、新聞社のサポートなどが必要）
◆教材化の視点がむずかしい。